

# 県私幼会報

No.209



発行人：理事長 前田邦光 社団法人新潟県私立幼稚園協会 新潟市中央区笹口1丁目12番地7 ダイアパレス笹口内 TEL (025)245-2691 FAX (025)245-2692

## 小さな親切

## 大きなおせっかい

理事長 前田邦光



東京で開かれる幼稚園の会議に行く度に思うことがあります。それは、駅や車内でいやと言った程聞かされたり、読まされたりするアナウンスや注意書きのことです。

「エスカレーターをご利用の皆さまは手すりにおつかまりの上、黄色い線の内側にお立ち下さい。エスカレーターの中をかけ登ったり、かけ降りたりならしないで下さい。他のお客さまの迷惑になり大変危険です」「次の駅は～です。～線、～線にお乗り換えのお客さまはお降り下さい。右(左)側のドアが開きます」「かけこみ乗車はおやめ下さい。大変危険です」「車内、特に優先席の近くでの携帯電話のご使用はお控え下さい。周りのお客さまの迷惑となります」「トイレをご利用下さい」「トイレのドアを開ける時は、ドアの外に居る人やドアの外を歩く人に気をつけてお開け下さい」……etc.

これらのアナウンスは、ありがたいことに瞬も止まることなく、まるで壊れた水道の蛇口から流れ続ける水のように、しつこく、押しつけがましく常時流されています。目をつおれば見たくない物は見なくとも済みませんが、耳はそうはいきません。好むと好まざるにかかわらず、「聞かされる」ので。

このアナウンスは、多分親切心から出ているのだと思えますし、一部の人間にとっては本当に必要なものなのでしょう。しかし、毎日これを聞かされている人たちは、どのように感じるのでしょうか。少しいじわるな物の見方をすれば、これはひょっとしたら本当の親切心からではなく、万が一事故やクレームがあった場合に、「こちらがちゃんと言葉を促していますから、責任はありませぬ」といつ言いつくすためのものではないかとさえ思え、腹が立ちこめるのです。

幼児や子どもたちでさえ、ある程度の公共マナーは身につけているというのに、いったい誰に向けて、何のために、このようなアナウンスを垂れ流しているのでしょうか。

そして、世の中全体がこんなにも過剰な「親切」や「おせっかい」になってしまったら、子どもたちや若者に、本当の主体性や公衆道徳、社会性などが育つのだろうか、不安になるのです。過保護、過干渉の親の元では、自主性、主体性に富んだ子どもは育ちにくいとよく言われますが、これは世の中と子どもたちとの関係に置き換えても、当てはまるのではないかと思うのです。

最近、外国人を受け入れている大学や企業の人たちの言葉の中に、「日本の若者は従順でまじめ。言われたことを言われた通りにするが、自ら考える力や、自主性・主体性・発想力・表現力に欠ける人が多くなっている」とありました。グロー

バリズムの世界の中で、外国や外国人と対等にやり合っていく上では、問題だということなのでしょう。

以前、フランスやベルギーを旅したことがありますが、楽しかったと同時に大きなショックを受けました。特にパリの地下鉄は網の目のように複雑で、駅や車内には親切な掲示物やアナウンスは全くありません。多くの駅には駅員すら居ませんので、聞きたくとも聞けません。切符売場は自動販売機がほとんどで、駅員の居る売り場は厚い防弾ガラスに囲まれていて、まるで犯人を見るような目つきでこちらをにらみつけており、とても聞ける雰囲気ではありませんし、だいたい私の下手な英語と相手のフランス語が通じ合うはずもありません。地上でも同様です。タクシーは一定の乗り場しかなく流していませんし、交番はほとんどなく、聞こうにも聞けません。ヨーロッパの第一印象は、冬に行つたせいもあるかもしれませんが、とても冷たいものでした。

そこで気がついたことは、「自分の頭で考え、自分の力で行動するしかない」ということでした。地図や路線図をしっかりと見て頭にたたき込み、さらにそれらを片手に握りしめて、自分の目と耳と感性と判断力をフルに動員し、勇気を持ち、失敗にもめげず、他人に頼らず自分を信じて行動するしかないという悟りでした。

この体験はとても新鮮で、日本に居ては感じることでできない、生まれて初めての貴重なものでした。日本人や日本の社会の特質である、家族的、きめ細やかさ、親切、いねいさなどの美徳を残しながら、西洋の個人主義的な考えの持っている、自主性、主体性、自己責任感といったものをも少し育てたならば、世界に誇るべき素晴らしい国民が、そびえ立ちあがり始めると思つてのじゃ。

# 第47回新潟県私立幼稚園協会

平成23年10月6日(木)  
全体会場：リージョンプラザ上越

# 教育研究大会 上越大会

## こころみつめて ～いかし愛・そだち愛・つなぎ愛～

### 【公開保育各園テーマ】

聖公会聖上智幼稚園・遊びの中から、友達との関わり・集団の持つ教育力によって、自ら育む心・育ちの心を養う

真行寺幼稚園・おたんじょうびおめでとう、みんなありがとう

たちばな春日幼稚園・育てよう！ 見つける楽しさ、共に感じる喜び

マハヤナ幼稚園・様々な体験・活動の中で、友だちや先生と関わりながら、思いやりの気持ちや感謝の気持ちを育てる

私は、子どもたちといろいろな会話を  
楽しむ給食の時間が大好きです。「おい  
しいね」と嬉しそうにご飯をほおぼる時、  
「先生、全部食べられたよ」とお皿を見  
せる時、それらのどの瞬間も満面の笑み  
があふれています。  
今回木村まさ子先生の講演を聞き、子  
どもたちと過ごす給食の時間、毎日家族  
と食べる温かい食事が、いかにありがた



講師の木村まさ子様  
心に残るメッセージをたくさんいただきました

# 育み はぐくまれる命を 感じながら

いずみ幼稚園 教諭 渡邊美由紀

# 全体会記念講演 「育みはぐくまれ」

いかということを感じました。毎日当  
り前のように頂いている食事ですが、ど  
れだけたくさんの方が関わり今ここに  
あるか、どれだけの命を頂いているかを思  
うと、自然と感謝の心があふれてきます。  
そして、食べ物や食べるという行為を粗  
末にすることは、許されないことなのだ  
と改めて感じます。

自分のまわりのたくさん命、つな  
がってきたかけがえない命、それを大切  
にしていかなければいけない、それを子  
どもたちに分かりやすく伝えていかな  
くはいけないと感じました。

「だーいすき」とたくさん伝え、たく  
さんほめ、認め、子どもたちが自分を大  
切にし愛せる人になれるよう、少しでも  
お手伝いしていきたいと思えます。そし  
て、私自身もまわり  
の全ての命に感謝  
し、自分自身をたく  
さん愛していきたい  
と思えます。



参加者は400人近くとなり、会場は満席でした。



開会式では、永年勤続表彰式も行なわれました。



# 公開保育に 参加して

## 聖公会聖上智幼稚園

緑が丘幼稚園 教諭 立垣 理沙

年長組は自然物や様々な製作材料を使い、動物作りを楽しんでいた。その中で友達とイメージを共有し、相談したり、工夫したりしながら、発想豊かに製作を進める姿がたくさん見られた。一学期から自然物に触れ合い、様々な遊びを経験してきたことが、今回の遊びに繋がっていることが分かった。出来上がった作品の良いところなど具体的に認め、周りの子どもに知らせる保育者の言葉が印象に残った。

年中組ではリズム遊びをしていたが、保育者のピアノに合わせて、自由に身体を動かす子ども達の伸びやかな表現力は素晴らしかった。ときには聞く子どもによって、虹であったり、雨であったりと反応が違っていたが、どれも間違いではないと言葉をかける保育者の姿があり、一人ひとりの表現を大切にしていることを感じた。



今回の公開保育では、子ども達の持つ表現力の素晴らしさ、そしてそれぞれが表現を認め合い、楽しさを共有し合うことは、保育者がどう遊びを導いて行くかがいかに大切であるかを改めて学ぶことができた。

## 真行寺幼稚園

エービーシー幼稚園 教諭 辰口 瑞希

十月六日に上越地区の教育研究大会に参加し、真行寺幼稚園の保育を見せて頂きました。「おたんじょうび おめでとーう みんなありがとー」を研究主題に、当日は誕生会をさせていただきました。

最初は各保育室で誕生児の紹介をしていました。冠やペンダントのプレゼントをもらったり、お家の方からのメッセージを先生に読んでもらったり、クラスのお友達からお祝いしてもらって、誕生児の嬉しそうな表情を見る事が出来ました。

その後全員がホールに集まり、誕生会第一部の始まりとなりました。歌ったり、お話を聞いたり、おまじりをしったりと、皆の前に立つ誕生児が今日の主役なのだという事が、とてもよく伝わってきました。また、お祝いしている子ども達もお喋りする事なく誕生児を祝う気持ちを保持して上手にお話を聞けていたのが印象的でした。第二部のお楽しみ会も興味があり、見てみたくかったです。

園長先生からの話にもありましたが、誕生会は子ども達にとっては、一ヶ月に一度の行事ではなく、一年に一度の大切な日だという事、またお家の人や周りの人に感謝する日だという事を、改めて知る事が出来ました。誕生会は園によって内容が違つと思いますが、子ども達の思い出に残る日になるよう、努力していきたいと思えました。

## たちばな春日幼稚園

恵光学園第二幼稚園 教諭 島倉さとみ

私は、たちばな春日幼稚園を見学させていただきました。改築のため今年度は同じ系列園の子どもたちも一緒に園生活を送っているとのこと、いろんなお友だちと関わり、共感し合いながら楽しく過ごしている様子を観察することができました。



園に入ると、まず保育環境の工夫を感じました。園児が表現した絵画作品が掲示されていたり、保育室にはダンボールのバスや、天井のぶどう棚、海など、見ているだけでワクワクするようなものがたくさん設定されてあり、大人の私まで、一緒に遊ぶものばかりで、まるで遊園地のようでした。保育者の言葉掛けも、肯定的であることや遊びの中の子ども達に対する柔軟な受け答えが、幼児の意欲をさらにかき立てているのだと感じました。今回の機会でも、改めて保育者の役割について、考えることができました。自分の保育を見つめ直し、日々励んでいきたいと思えます。

## マハヤナ幼稚園

太陽幼稚園 教諭 長谷川有紀

教育研究大会上越大会では、マハヤナ幼稚園の保育を参観させて頂きました。明るくて開放感があり、収納や衛生面に様々な工夫や配慮がされた園舎で、園の研究テーマのもと、3歳児は「自然物や廃材を使って音遊び」、4歳児は「大きな動物の制作」、5歳児は「ひとくち茶巾サラダ作り」をしていました。

どの学年も、一年を通して計画的に保育が進められており、それまでの様々な体験や経験からの成果を、子ども達の姿から感じ取ることができました。保育者の適切な言葉かけや援助により、子ども達は意欲的に活動に取り組み、生き生きとした表情で自分の思いを言葉や態度で表現していました。ねらいを持ち、計画的に保育を進める中で様々な直接体験の積み重ねが大切であることや、心情面の育ちにつながる保育者の援助や言葉かけの仕方についても学ぶことができました。

また、壁面装飾などの環境構成をはじめ、職員の方からいろいろお聞きしたお話も、同じ認定こども園で規模もほぼ同様というところもあって、大いに参考になったと同時に、たくさん勉強させていだき、今後の保育に活かさせていただきます。ありがとうございました。



# 幼児教育講座

日時 平成24年1月6日(金)  
会場 新潟市「STEP」

## 講座1

### 園長・設置者が心がけたい 園の環境構成とは

京王幼稚園 副園長  
井村 静良



大妻女子大学家政学部教授  
岡 健先生

今改めて、幼児教育の大切さをどう捉えるか、持続可能な社会の担い手として、そして未来を創りだす存在として捉えられる必要がある子どもたち。また、子どもは教えなければ何も出来ない無力な存在ではなく、いま現在を有能な学び手として日々を生きて、私たちの社会の一員となるべく育ちゆく存在として生きていく、ということ。乳幼児期の教育が果たすべき役割とは何か、それはまさに有能な学び手として子ども自身が意欲に満ちた存在になるように促し、そのための基礎となる健やかな「からだ」を育むことが大切になる、ということ。以上のことを見つめ直すとき、講座のタイトルである、「環境構成」を今いちど考えることが必須と

なっていく。

では、その最初の一步をどう創るのか、わたしたち自身が「子ども」という存在に対する意識転換を図るとともに、子どもと向き合う保育・教育という実践についての取り組みを、「社会＝保護者」に発信して行くことがもたえられる。

例えばなぜ「成果」や「結果」よりも、「学ぶ意欲」や「プロセス」に重きを置いた志向なのか、ということ、園としてはもちろん、教育者である先生達が明確に理解し、伝えることが出来なければならぬ。その園が目指す方向性を、はっきりと具体的に事例を挙げて示すことで「社会＝保護者」との共通理解を得ることが、結果として子どもたちにとつての最適な、園環境の構築へとつながっていくのだ、ということを改めて認識させていただくことができました。

## 講座2

### 学び続ける保育者として 必要とされること

ひのまる幼稚園 教諭  
渡邊加穂理

今回のテーマを通して、5つのキーワードをもとに、学び続ける保育者として必要なことを教えて頂きました。



文京学院大学大学院人間学研究科教授  
平山 許江先生

私自身が鮮度を保ちながら、子どもと一緒にいろいろなことに興味を持つ「学び続ける保育者」でいられるように頑張っています。

- ① 保……命を保つこと。一人一人をしつかりと把握すること＝保育の原点。
  - ② 保2…子どもを当たり前の子どもの育てよう。子どもらしさを大切に育てる。
  - ③ 育……「育てたい」ものと「育っているもの」は何か、しつかりとチェックしてあげること。
  - ④ 園……幼稚園。そこで展開される楽しいもの、場所。
  - ⑤ Ⅱ(イコール)……子どもと共に保育する。
- 5つの内容は、どれも保育をする中で必要なことでありながらも、見落としがちなところもあるのではないかと感じました。なかでも平山先生の「学び続ける＝鮮度を保ち続けることは難しい」とお話しされた言葉が深く印象に残っています。子どもと一緒にいろいろな経験をする時の感性は、新人時代と十年経った今とは同じだろうか？ 物事を新鮮に捉えたり感じたり、一緒に楽しさを共感できているだろうか？ と考えた時に、私はどの位鮮度があるのだろうか？ と振り返り反省するいい機会となりました。
- これからも今回の講習で学んだことを活かしながら、子ども一人ひとりと真剣に向き合うことを大切にしていきたいと思います。
- そのためにも、私自身が鮮度を保ちながら、子どもと一緒にいろいろなことに興味を持つ「学び続ける保育者」でいられるように頑張っています。

## 講座3

### 幼保一体化の現状と 今後の課題

愛泉幼稚園 園長  
中村 寛

全日本私立幼稚園連合会政策委員会長の入谷幸二先生を招いて、表題について講演をして頂きました。

講演は、三つの観点から行われました。一つ目は、今までの経緯。二つ目は、構想的具体的概要。三つ目は、今後の課題(今後の動向と展望)というものでした。まず、一番目は、幼保一体化の時間的流れとして、平成二十一年十二月八日の閣議決定を端緒として、いわゆる「幼保一体化」構想が政府の重要政策課題の一つに位置づけられ、三つのワーキングチームの下で討議が重ねられ、平成二十三年七月に「子ども・子育て新システムに関する中間とりまとめ」が提示されたこと。二番目の観点として、その内容についての説明が行われました。そして、施設の種類が取り上げられ、現在の幼稚園が、そのまま幼稚園として残る形として、①子ども園給付の指定を申請する園があること。また、保育園は、①原則として三歳児以上の幼児を受け入れていた園は、総合施設に移行する。②二歳未満児のみを受け入れていた園は、子ども園給付の対象にな



全日本私立幼稚園連合会政策委員会委員長  
入谷 幸二先生



ること。そして総合施設、その他認可施設と同様の基準を満たす施設というように、多様な類型が存在するようになることの説明がされました。

最後に今後の課題として、一、多様な保育事業の量的拡大を図る為に株式会社等の参入を許容する為、教育・保育の質を保てるのか？ 二、私学助成はどうなるのか？ 三、需給関係の策定主体が市区町村になるので、保育所中心に目標値が立てられるのではないかとという懸念があること等を、分かりやすく説明して下さり、幼保一体化のシステムの概要が浮き彫りにされた幼児教育講座でした。

### 講座4 園内研修の効果的な すすめ方

坂井輪幼稚園 主任 室本 友美

大妻女子大学教授の岡健先生より「園内研修の効果的なすすめ方」という内容でご講演いただきました。

園内研修を進める上で大切なことは、自分の意見を持つこと、その意見を発言すること、園内で意見を共有することであり、それは会議を進めるための基本的条件とのことでした。

話し合いに参加しやすくする工夫としては、各目の発表前に考える時間を一分間とり自分の考えをメモ（ポストイット等）に書き、それをホワイトボード等に貼りながら皆で意見を整理してまとめる方法や、ランキングという手法で自分が見えぬところのリンクをつけたか説明することで、保育の何をどう見ているのかを伝えやすくする方法などがあります。そのよ



たくさんの先生方にご参加いただきました。

うな方法を意図的に組み入れることで、意味のある内容の濃い研修に変わるそうです。このように園内研修を効果的に進めるためには、保育の観方や質、自己点検、自己評価等の問い直しを個人の中に求めるのではなく、同僚性を構築する中で問い直していくことにより学びは深まり高まっていくため、同僚性に基づく園内研修をいかにして進めていくかがポイントになるとのことでした。人は人の力を借りながら伸びていくもの、すなわち様々な意見を聞くからこそ新しい発見や気付きが生まれておもしろいというお話から、職員が共に保育を深めていく園内研修の大切さを感じました。今後の園内研修に、学んだことを活かしていきたいと思います。

### 講座5 幼児教育の今後の動向と 展望について

柏崎二葉幼稚園 副園長 小林美喜子

文科省初等中等教育局幼児教育課課長補佐・内田広之氏より講義をしていただきました。講義の中心は現時点での、子ども・子育て新システムにかかわる国の

- 動向で、
- ① 幼保一体化になっても幼稚園の制度は残る。
  - ② 施設の一体化。学校教育、保育及び家庭における養育支援を一体的に提供する、総合施設を創設。
  - ③ 給付の一体化。学校教育、保育に係る給付を一体化したこども園給付の創設で、二重行政の解消及び公平性の確保。

- と言った内容でした。以上を踏まえ、幼保一体化の目的は、
- 1、質の高い幼児期の学校教育、保育の一体的提供。配置基準の見直し等により、学校教育、保育の質がさらに向上する。
  - 2、幼稚園から総合施設への移行により、保育の量的拡大・質的に確保できる。
  - 3、家庭における養育支援の充実。総合施設への移行により、家庭における養育の支援機能が強化できる。



文部科学省初等中等教育局幼児教育課課長補佐 内田 広之様

今後、激動する社会の中で幼稚園のシステムは変わっても、子どもたちの健全な成長を願う気持は同じです。建学の精神に立って、長い間培ってきた幼児教育を守り、継承していくためには、多様な保育ニーズをしつかりと受け止め、現状を見つめ、私学の灯を消さないためにも改良プロセスを明確にし、幼稚園の転換期を乗り越えていく事が大切ではないでしょうか。

### 講座6 子どもに喜びを与える 「おもちゃ」の作り方

蒲原幼稚園 教諭 島倉 利恵



十文字学園女子大学人間生活学部教授 平田 智久先生

講座6では、子ども自身が喜びを見つけて環境作りを、実技をまじえて改めて学ぶ場となりました。まず、先生がお話されたのは「表現とは？」という事でした。「表現」とは子どもがあらわす意思で、教師は聞く耳を持つこと。「現」とは、子どもの無意識の内的な変化で、教師は感じ取ることが大切であるということでした。

実技では、①箱を高く積み遊ぶ、②箱を切る、③好きなように接着することをやりました。実際に子どもたちの気持ちになつて好きなように切ったり、貼ったりする中で、私自身こんなにイメージが膨らんでいくのだと感じ、このように子ども自身が喜びを見つけて環境作りを日々の保育に生かしたいと思いました。最後に、子どもの興味関心が前頭葉を動かせる、前頭葉をたくさん動かす活動から、思考力、我慢する力、自己コントロール力が養われるため大事にしてほしいという事でした。改めて、見て考えて表現する活動の大切さを感じ、学ぶ事の多い、有意義な研修となりました。

### 統合保育研修会

あそびの森  
金鷄幼稚園 教諭 高見澤早希

この度は研修会に参加させて頂き、保育のユニバーサルデザインについて、特別な子に特別な個別支援をするのでなく、多くの子どもたちに優しい保育を提案するには、どのような工夫ができるかを学びました。



講師の有川幸先生

実際に、一枚の写真を見て「おもしろいでしょっつ」と言われてもその面白さを理解することは難しいですが、その写真がどのような情景で撮られたものか説明を聞き、また写真にまつわるエピソードを聞き、はじめてその素晴らしさを感じる事ができました。保育活動においても、活動を提案して「わかるでしょっつ」と子どもに対して説明が不十分だと、活動の楽しさを味わえないままになってしまいます。そこで様々な角度から活動を捉え、説明を加えたり、見たり、触れたりして「わかる」で、障がいがある、なしに関わらず、多くの子どもたちが活動にアプローチし易い環境を設定し、子ども「わかっただ」「おもしろい」を引き出すことが重要とのことでした。どの子にも優しい保育を目指していきたいです。

### 新幼稚園教育講習会

旭が丘幼稚園 主任 中村あずさ

【研修テーマ】  
「ひとりの自己評価の集約のしかた」〜ひとりのおもいから、みんなのおもいへ〜

各園が様々な方法で取り組まれている「自己評価」について、まず実践発表をうかがい、その後実際に各自が①Ⅰ保育の計画性、②Ⅱ保育のあり方、幼児の理解③Ⅲ保育者の資質能力の3つのうちから1つを選んで、自己評価に取り組んでみました。



それについてグループディスカッションでは「よく出来たこと」「これからの課題」を具体例をあげて話し合いました。個人の自己評価を通して園全体の課題点をどう伝え直していくか、園内での話し合いを大切に、次の教育活動や園運営の改善につなげていかなければならないと感じました。

当園でも自己評価は行なっているものの、それをどのようにまとめて園評価につなげていけばよいか、また、学校評価をどのように公表していけばよいか、といったことが課題となっています。今後、教職員間で意見交換しながら十分な話し合いをし、実践して「わかる」が必要であると感じました。

### 経営研修会

二葉幼稚園 園長 斎藤 聖治

平成23年12月20日13:30〜新潟市中央区の東急インにおいて、平成23年度の経営研修会が開催されました。

■研修①「幼稚園事務に関する留意事項」  
文書私学課主任中村様より主に県の監査についてお話がありました。私学の公共性を担保しそれを開示するという観点からも、日頃より必要書類等を揃えておく事は非常に重要です。監査に関わらず、各園で今一度、ご確認いただければと思います。

■研修②「経営委員会調査報告」  
昨今の私立幼稚園の大きな課題として、教員採用があげられます。学生の幼稚園離れの傾向が新潟県でも顕著になってきました。今後、待遇面のみならず、幼稚園教諭として子どもたちを育て素晴らしさを、学生に広く啓発する必要があると思われれます。

■研修③「社会保障・税一体改革と子ども子育て新システムについて」  
淑徳大学総合福祉学部教授 柏女豊峰様より最新の動向についてご講演をいただきました。

新システム実施の具体的な期日については、「社会保障・税一体改革素案」において、消費税の引き上げの時期を踏まえるとともに、平成25年度を目途に可能なものから段階的に実施されることとすることが、システムや形にとらわれることなく、「私立幼稚園」として、私たちがやるべき事は何なのかをあらためて考えさせられる講演でした。



### 幼稚園教育理解推進事業(中央協議会)

加茂葵幼稚園 主任 松本 明子

平成23年12月13日(火)・14日(水)に、東京国立オリンピック記念青少年総合センターにて開催され、都道府県教育委員をはじめ、全国の国公立・私立幼稚園教員四二六名が参加しました。

1日目は神長美津子先生の「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続のあり方について」の講演があり、遊びを通して指導を行う幼児教育と、教科の学習が中心となる小学校教育の間にある段差を解消するためには、幼児期と児童期をつながりとしてとらえる工夫をすることなどが大切であるご指導いただきました。

2日目は「子育て支援と預かり保育」についての分科会に参加しました。自園ではまだまだ課題の多いこの点について、研究発表を聞いたたり、グループ別に話し合ったりして、どのような工夫や配慮をされているのか多くの方々から学びました。

最近では保護者の子育ての不安やストレス、就労形態の多様化によって園における子育て支援の必要性が高まっています。私たちは幼児教育に携わる者として、単に保護者の育児を代わって行うのではなく、保護者への支援を通して、「家庭の教育力の向上」を図っていく必要性、大切さを学びました。今後は今必要とされている援助を行える力を身につけていきたいと思えます。





# 保育体験記



## 卒園を前に...



中島幼稚園 教諭 小野 祐子

今年度も残り少なくなってきました。

年長児二十五人の担任をさせてもらい、小学校との連絡会、一日入学の真つ只中にある今、一人ひとりの成長をしみじみと実感しているところです。

幼稚園に勤めて六年目。一年間の保育の流れをつかみ、子どもたちの成長やクラスとしての成長の見通しも、なんとなくではありますが、わかるようになってきたと感じています。

しかし、毎年、目の前にいる子どもたちは様々な反応を見せ、いつも私に新たな刺激を与えてくれます。

今年度、担任をさせてもらった子どもたちも、そうでした。私たちが保育者の働きかけや声かけ一つとっても、二十五人いれば二十五通りの反応があり、その反応は私に驚きや新鮮さ、時には悩みも与えてくれました。

伝えたいことが、子どもの心に響かず、もやもやと悩んだり、こちらの予想を越えた発想に驚き、「そんな考えができるなんて!」と嬉しくなったり。

特に、11月の終わりに行われたお遊戯会までの活動の中で、子どもたちの成長を実感することができました。ちょうど、子どもたちもクラスとしての仲間意識が深まってきてい

たころです。

劇で使用するおめんや小道具の製作中は、「先生!みんな!こうしてみようよ!」「○○くんこのねがもおもしろかったから、ほくもこんな風にしてみたよ!」など、自分の考えをクラス皆の前でのびのびと表現したり、友だちのアイデアを認め合ったりする姿が。

各クラス交替で行われるステーション練習では、他のクラスの友だちや先生たちに、ほめてもらったことで自信がつき、「お父さんやお母さんも喜んでくれるといいね。」と、他の人の喜びを自分の喜びにする姿も。

時には、くり返しの練習が面倒になり、ふざけている子を叱ったこともありました。しかし、その後には「先生に叱られるからやる。」のではなく、「クラスの発表を成功させたいから頑張る。」と考えられるようにもなりました。

心の面での成長を実感し、とても嬉しくなった出来事でした。

たくさん感動を与えてくれた子どもたちと過ごせる日もあとわずか。卒園するその日まで、私にどんな言葉をなげかけ、私の言葉にどんな反応を返してくれるのか、楽しみにしています。



## 一年を振り返り



鵬幼稚園 教諭 住安 由希

この一年、年中児のクラス担任として元気いっぱいの子ども達に囲まれ、充実した毎日過ごさせて貰いました。

子ども達の成長は凄いと驚くことばかりであつたと言つ問の一年だつた気がします。四歳児になり活動の幅が一段と広がり、話を聞くだけで、「今すぐやりたいな。」と目を輝かせて「いつやるの。」と次々に聞いてくる、そんな子ども達は、どんな事にも興味をもち臆せず、一生懸命全身で挑みます。その姿に感心し、受け止めている事が子ども達にしっかりと伝わり、それが自信を生み、どの子も先へ先へとどんどん進んでいくつとします。

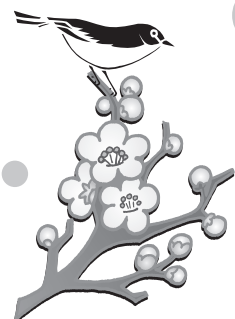
私は、子ども達の笑顔からたくさん元気を貰っています。よさこいを踊っている時、何気ない一言を交わした時、ふと顔を見合わせた時、毎日の生活には子ども達の笑顔が、一年分ぎつしり詰まっています。また、パスル遊びや絵など何かに夢中になっている時の真剣な眼差し、悔しさのあまり流す涙、様々な経験を、子ども達が見せる表情は、本当に素直で純粋なもので、はっとすることが何度もありました。その心の動きを直に辿ることができ、とても幸せだと思つています。

子ども達は、友達と遊ぶ事が大好きです。四歳児になると集団で遊ぶ

ことが増え、時には、トラブルになつてしまいます。玩具の取り合いで、一方は気持ちを口で伝えることができず、他方は、なかなか言葉にならず手を出してしまつ、そんな場合でも子ども達同士の間わり方は少しずつ変わり、「順番に使おう。」というルールをきっかけに役割分担のよな形ができ、いつの間にか一緒に遊んでいました。集団生活の中で、友達と遊ぶ事の楽しさを通して、少しずつ相手のことを考えられるようになってきていると強く感じました。

そして私は、見守ること、受け止めることの大切さ、難しさを改めて学びました。

日々反省することたくさんありますが、反省は次への一歩に必ず繋がっていると信じています。毎日の保育を振り返りながら、私自身も子ども達と全力で関わり、いろいろな経験を一つ一つ積み重ねて、共に成長していきたいと願っています。



平成24年度研修会等予定

5月16日(水)

●総会

●設置者・園長研修会

(新潟市・チサンホテル)

8月2日(木)・3日(金)

●関東地区教員研修神奈川大会

(パシフィコ横浜)

10月16日(火)

●教育研究大会 新潟大会

☆全体会場

朱鷺メッセ

☆公開保育会場

沼垂幼稚園・牡丹山幼稚園

県立幼稚園・寺尾幼稚園

愛泉幼稚園・まるみ幼稚園

緑が丘幼稚園

11月～12月

●新幼稚園教育講習会

1月7日(月)

●幼児教育講座

(新潟市・STEP)

ほか開催予定

経営研修会

統合保育研修会

PTA研修会

◎詳細が決まり次第お知らせいたします。ふるってご参加下さい。

敬弔

●柏崎市 小鳩幼稚園

元園長 大橋益夫先生

平成23年12月16日 88歳

●村上市 あらかわ幼稚園

園長 佐藤イツ先生

平成24年2月20日 95歳

ご生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します



◆降りしきる雪の中、お母さんと子どもが肩寄せ合って登園する姿に思わず合掌。以前はごく当たり前だったこうした姿もめっきり減った昨今。その時にはわからなくても、成長過程のごこかできっと、親の深い愛情に気づくことでしょう。

(加茂葵・西村 優子)

◆冬が厳しければ厳しいほど、春の訪れが喜ばしく思える、とはいえず今年も雪には悩まされました。お住まいの地域によってはまだまだ大変なところもあるかと思いますが、雪を見て目を輝かせている子ども達の姿を励みに、どうぞ皆さまご自愛下さい。

(京王・井村 静良)

◆ある先輩の言。

「明日死ぬかもしれない、100まで生きてもいいように、行きたいところに行っておこう、食べたいものは食べておこう、会いたい人には会っておこう、足腰弱らぬその前。」  
でも、そのもつと前に喫緊の課題である少子化時代の幼稚園教育ビジョンを打ち立ててねば…。

(小鳩・池田 廣美)

◆東日本大震災から一年。時々テレビで衝撃映像を見ることがあり、その度にあの一瞬の出来事が鮮明に蘇ってきます。普段の生活で少しづつ忘れていた事に気付き、改めてあの震災を忘れず伝えていく事の大切さを感じました。

(ゆたか・五十嵐佳代)